

CONTENTS

文化人の本音 河合隼雄文化庁長官対談 第45回 ゲスト小沢昭一さん●俳優

仕込みをきちっとやって、やる時は楽しく4

長官コラム 文化庁の抜穴9

いさきミュージアム 美術館・博物館事業レポート 45	
愛知県美術館22	
芸術文化の風 9	
展示会をもっと楽しむには(野口玲一)23	
著作権Q&A 『著作権なるほど質問箱』から 9	
著作権者の了解がなくても著作物を利用できる? 私的使用24	
文化交流使の活動報告 20	
杉 葉子(女優)25	
伝建地区を見守る人々 伝建地時記 21	
椎葉村の伝建地区に暮らす人々の祈りと暮らし(宮崎県椎葉村)26	
史跡を楽しむ 9	
特別史跡讃岐国分寺跡(香川県国分寺町)28	
言葉をつめる 9	
読み手に直接、語りかけてもいいですか?29	
地域からの「文化力」発信 9	
地域資源を活かした大阪府熊取町の文化の振興30	
文化人 in 関西 関西元氣文化圏で活躍する人々 9	
街活かし人活かしのカリスマ! 『ほんまもんの街商人』	
土居年樹さん(大阪市)32	
風を呼ぼう、わが町に 登録有形文化財建造物との歩み 21	
文明開化と国際リゾート 箱根の近代文化遺産の活用33	
日本の伝統美と技を守る人々 重要無形文化財保持者の団体編 5	
重要無形文化財 歌舞伎34	
国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 文化財鑑賞の手引き 33	
古筆切と手鑑35	
日韓友情年事業紹介 5	
ついに「日韓友情年2005」もフィナーレ36	
第3回文化庁国際文化フォーラム報告37	
みんなで守ろう文化財 第52回文化財防火デー38	
東京国立博物館	
新春特別展示 犬と吉祥の美術39	
京都国立博物館	
新春特集陳列 京都社寺伝来の名刀39	
奈良国立博物館	
特別展 金沢文庫の名宝 鎌倉武家文化の精華40	
京都国立近代美術館	
ドイツ写真の現在—かわりゆく「現実」と向かいあうために41	
九州国立博物館	
開館記念特別展第2弾 中国 美の十字路口41	
東京国立近代美術館 フィルムセンター	
シネマの冒険 闇と音楽 生誕百年の監督たち42	
国立国際美術館	
ブーシキン美術館展 シチュエキン・モロゾフ・コレクション43	
東京文化財研究所 国際文化財保存修復協力センター	
第29回文化財の保存および修復に関する国際研究集会	
「シルクロードの壁画が語る東西文化交流」シンポジウム44	

新構想の博物館
博物館は文化活動の中心
建物設計にあたって

論文

九州国立博物館を核としたまちづくり

論文

アジアのあけぼの

寄稿

九州国立博物館の開館を迎えて

論文

特集 九州国立博物館の開館

菊竹清訓18
三輪嘉六14
佐藤善郎13
阿刀田高12
野崎弘10今月の
表紙

九州国立博物館

新国立劇場スポットライト45

1月の国立劇場46

芸術文化振興基金ニュース47

題字デザイン 桑山弥三郎

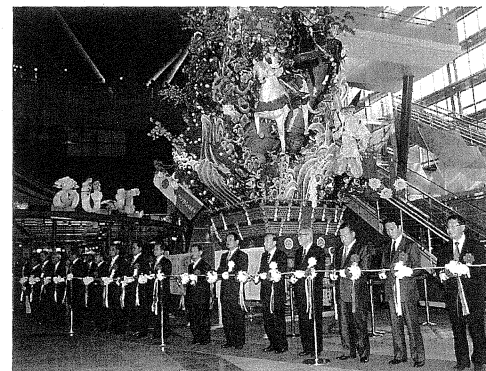
九州国立博物館の開館を迎えて

長年の念願であった九州国立博物館が、平成一七年一〇月一六日福岡県太宰府市に開館しました。実現に向けて尽力されてきた地元の関係者を始めとする多くの方々に敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

独立行政法人国立博物館は、平成一三年四月、設立準備室を設置し、博物館運営の検討、展示資料の収集などを行ってまいりました。そして、本年四月、九州国立博物館を設置し、東京・京都・奈良に加えて四番目の国立博物館が誕生いたしました。

地元の力で実現

九州国立博物館は、地元福岡県など九州の熱心な誘致活動と強力なご支援・ご協力を得て、実現したものであります。イ



テープカットの様子

ンターネット上で「九州国立博物館」を検索したところ、「世の役に立つ人間たれー国立博物館への寄付金贈呈式」の記事がありました。福岡県立太宰府高等学校

独立行政法人
国立博物館理事長
野崎 弘



の生徒が、少しでも地元のために貢献したいという気持から、クラスの「不用品バザー」の売上金を財団法人九州国立博物館設置促進財団に寄付したというもので、博物館が地元の熱意に支えられていることを知り、嬉しく思いました。現在一日平均で約九〇〇〇人の来館者があり、人々の大きな期待の中で開館できたことを実感しております。

この博物館の特徴は、福岡県立アジア文化交流センターと連携・協力し一体となつて管理運営していくことです。法人が設置する九州国立博物館は、主に、展示機能および博物館科学（文化財の保存修復機能）、アジア文化交流センターは、情報機能、国際交流機能および教育普及機能を担当することとしており、今までにない新しい形態の博物館であります。

す。今後とも、福岡県をはじめ、地元のご支援・ご協力を得て、新世紀にあふらしい博物館を目指してまいります。

国立四館の連携・協力

国立博物館四館は、それぞれ特色があります。東京は、総合的な博物館として、日本を中心として広く東洋諸地域にわたる文化財を、京都は、平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財を、奈良は、仏教美術を中心とした文化財を対象としているのに対し、九州は、日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財を対象としています。九州においては、収蔵品が少ないということもあり、既設三館から千件余りの作品を提供するほか、展示事業への協力など、さらなる緊密な連携・協力を図っていくこととしております。また、皆様からの寄贈・寄託が平常展の充実のためにも大変重要であり、多くの方々のご協力してくださいよう、ぜひお願いいたします。

文化財を守り、後世に伝える

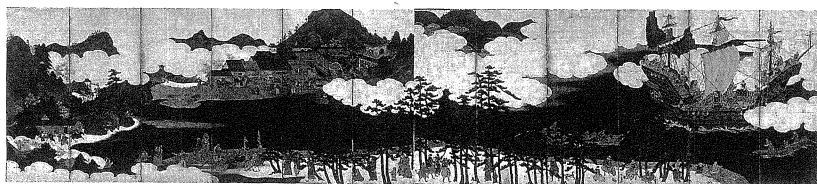
国立博物館が保管している文化財は、

古代から近代までの長い期間にわたって日本人が受け継いできた美意識あるいは精神を具現化したものであり、これと併せて密接な関係にある東洋美術を後世に継承していくことが、国立博物館の究極の使命であります。国宝・重要文化財については、国に優先的に買取りが認められているように、文化財を守り後世に伝えていく責務は、国にあります。法人化前の国立博物館は、国の機関として国所有の文化財を保管し、その責務を分担してきました。法人化後、国立博物館は、国から独立し、それまで国所有であった文化財を引き継ぎましたが、これらの文化財が守られ伝えられていかなければならない国民の宝であることに変わりありません。

国立博物館は、法人化後、多くの方々により親しんでもらえるよう、できるだけ民の発想を取り入れて、展示空間の整備やコンサートの実施などさまざまな事業を展開してきております。しかし、これらの事業の展開は、文化財が守られ伝えられていくという基盤の上に初めて成り立つことでもあります。

九州国立博物

館においては、文化財の保存修復とともに文化財をとりまく環境を科学することを重視し、保存修復事業を実施するのみでなく、一般の方々に文化財の保存修復の現場を見てもらい、文化財を守り伝えていくことの大切さを認識してもらうこととしております。これを基盤として、太宰府という地の利を生かして、多くの人々に親しんでもらえる諸事業を展開していきたいと思



南蛮船駛来河津航図屏風 6曲1双

寄稿

アジアのあけぼの

アジア的視点とは、よく言われることですが、その実、中身はよくわかりません。わからないと言ふより、われとわが身を顧みて、この視点がしっかりと身についておりません。おそらく私だけのことでありますまい。

たとえば「外国人」と言うとき、かなりの確率において私たちは「欧米人」を考えています。明治維新このかた欧米的な文化を吸収することばかり目を向けた結果、すぐ身近にあるアジアについて意識が稀薄になってしまったからでしょう。

しかし、申すまでもなく、日本には明治維新以前にも長い、長い歴史が実在し、そのプロセスでは近隣のアジアと密接に関わって来ました。明治維新以降だって

周辺の国々とはさまざまな形で関わって来たはずで。

そのとき、九州はつねに関わりの先端にあった、と、これはほとんど自明と言つてよいほど明白な事実です。海外文化はあらかた西の方からこの島国に上陸して来ました。政治や外交や戦争は国家の中心地で決定され、実行に移されることが多いとしても、人々の交流を軸とする諸文化は当然のことながら地域が近接していること、道が通じていることを握りどころとして関係を深めます。有史以前からそうであつたにちがひありません。

その九州の地に歴史の証左である博物館が建つ、本当にすばらしいことであると同時に、むしろ遅きに失した感すらありますが、それは、いま言いません。未来

志向で発展を願うほうが肝要です。ここ四王寺山のふもととは日本の黎明を伝えるばかりか、アジアの視点をすみやかに実現できる立地条件です。

不肖私は、なんの学術的な根拠もなく、もしかしたら松本清張を熟読したせいかもしれませんが、邪馬台国北九州説のファンです。かつて政治や文化の中心が北九州にあつたとき、内外の人々が、この地を訪ねては、そのすばらしさに惚れ込み、「じゃあ、また行こう。じゃあ、また行こう」と、うなずきあつたことから……それで、じゃまたいこく……なんて、ジョークはさておき、太宰府天満宮に近いこの施設に平成の訪問者が「じゃあ、また行こう」と、こぞつて叫びあうことを願つております。

作家
あとうだ たかし
阿刀田高



寄稿

九州国立博物館を核とした まちづくり

「遠の朝廷」と言われた大宰府政庁跡をはじめ、太宰府天満宮、観世音寺など史跡・文化遺産を持ち年間多くの観光客が訪れる「史跡・観光のまち」太宰府市に、東京、京都、奈良に次ぐ四番目の国立博物館として「九州国立博物館」が開館し、一〇月一六日から一般公開が始まりました。

この国立博物館の誘致には長い歴史があります。明治の末、岡倉天心が鎮西（九州）の地に国立博物館を、と呼びかけてから、連綿と続いてきた市民百年の悲願といえましよう。

九州国立博物館のコンセプトは「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」という、古くから大陸文化クロスロードの重要な国際交流の窓口として、アジア

に向けて開かれた我が国初の国際都市であつたこの地にふさわしいものです。

太宰府市では、この九州国立博物館を核として、かねてより取り組んでいる新しいまちづくりに視点をおいた「まるごと博物館」推進プロジェクトをはじめ、博物館へと続く「散策路整備事業」、地域の歴史や伝統文化などの価値や魅力を再発見する「太宰府発見塾」の開設、さらには博物館の開館を記念する多種多様なイベントを開催しているところです。

博物館と史跡を一体的に整備することにより、見学に来た皆さんが、実際の展示のなかで見たものや、聞いたもの、さらに古代からの壮大な歴史的遺産が、「本物」の形で現存する太宰府市全域を「屋根のない博物館」として散策していた

だき、歴史の豊かさを肌で感じとつていただきたいと思つています。

一〇月一六日から一般公開には、開館記念特別展「美の国 日本」が開館され国内外の至宝や九州初公開の「正倉院宝物」が展示され、予想をはるかに超える多くの方々に来館いただきました。

また、多くの市民ボランティアの皆さんが、ご案内等お手伝いをされており、市民と国立博物館が一体となった運営が行われております。

「歴史とみどり豊かな文化のまち」の創造に取り組む太宰府市では、国立博物館を核に、歴史的な文化遺産と観光の振興、地域コミュニティがそれぞれ調和した新しいまちづくりを目指してまいります。

太宰府市長
さとう ぜんろう
佐藤善郎



新構想の博物館

独立行政法人国立博物館 九州国立博物館長 二輪嘉六

九州国立博物館は平成六年度に文化庁に設けられた「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」（上山春平座長）以来、一〇年余の年月にわたって基本計画から建設工事、展示工事等々の準備を進め、平成一七年一〇月一六日（日）から、一般公開を開始しております。

九博は、東京・京都・奈良に次いで、四番目に設立された最も新しい国立博物館で、「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」というコンセプトを持っています。振り返ってみますと、二〇世紀には国立博物館は設置されることがありませんでしたので約一〇〇年ぶりの国立博物館ということになります。二一世紀をむかえて新しい博物館のスタートということになりますが、これからはアジアにおいて日本が果たすべき役割は、以前にもまして大きなものとなっております。この重要性に鑑みて、九博では、博物館が持つ諸機能を通じて、アジア諸国との文化交流を推進していく大きな拠点としての役割を果たしたいと考えております。

ります。

館の中心的な展示機能の一つである文化交流展（平常展）では、「海の道、アジアの路」をテーマとし、国宝・重要文化財を含めた多数の優品をこまめに展示替えし、映像やIT技術などを積極的に取り入れるなどして、アジアと日本との長い文化交流の歴史を、わかりやすくお見せします。また特別展についても、開館記念特別展「美の国 日本」に引き続き、平成一八年元旦早々から「中国 美の十字路」を開催、毎年数回の魅力ある作品を中心とした特別展を順次開催していきます。子供たちに、アジアの多様な文化を楽しく体験してもらう、「あじっば（アジアの原っぱの愛称）」では、各種のワークショップを行うなど、今後とも、教育普及に力を入れていきたいと考えています。

また、美術品、歴史・考古資料などの博物館資料を収蔵・展示するだけでなく、これらを保存し、材質などの調査をしてゆく博物館科学の拠点となることも目指します。さらに、

ボランティア活動をはじめ、各種の活動とおして、地域社会と一緒に取り組んでいく「生きている博物館」を実践できるように心がけていきます。博物館の諸活動や管理運営についても、国と地元とが連携・協力を行いながら進めるといって、新しい形態をとっております。建物は周辺の緑に美しく映えたガラス張りの外面構造ですが、中身も「ガラス張り」の、また市民にとって身近な博物館となるよう、努力を重ねて参ります。

皆様のさらなる応援とご来館を、心からお待ちしております。

主な展示品

九州国立博物館では、旧石器時代から江戸時代末期にいたる、「アジアとの交流による日本文化のなりたち」を、五つのテーマに沿ってお見せします。

当館四階にある巨大な文化交流展示室中央に展示された大陸との深い関係を示す国宝宮地嶽古墳出土品一括（宮地嶽神社所蔵）が、

来館された皆さんをお迎えします。第一テーマ「縄文人、海へ」におけるハイライトは、世界に類を見ない国宝火焔土器（新潟県十日町教育委員会所蔵）群（二月二十七日まで陳列）で、その力強い美しさを堪能ください。

第二テーマ「稲づくりから国づくり」では、稲作技術の導入から中央政権への動きを取り扱います。大韓民国国立博物館から長期借用した慶州出土の新羅古墳遺物などを展示します。特別史跡王塚古墳内部に描かれた壁画の美しさを、CGによる復原画像でご覧ください。

第三テーマ「遣唐使の時代」では、シルクロードを経由して運ばれてきたものや、わが国の遣唐使船が唐の朝廷に献上した品々と日本

に持ち帰った下賜品の復元品もご覧いただけます。また大宰府の面影もたどれます。

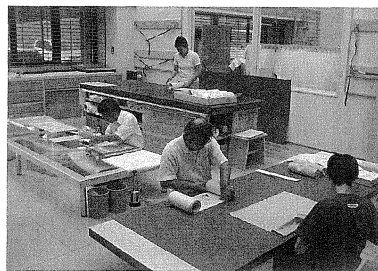
第四テーマ「アジアの海は日々これ交易」では、鎌倉時代の我が国を震撼させた元寇関連遺品に加え、室町時代の足利家を中心とする権力者層の間に広まった中国趣味を、茶道具や座敷飾りなどを通してご紹介いたします。

第五テーマ「丸くなった地球 近づく西洋」では、南蛮図屏風、キリシタン資料やアジア航海図などの世界地図をご紹介します。また朝鮮王国との外交文書（宗家文書）も話題を呼ぶでしょう。

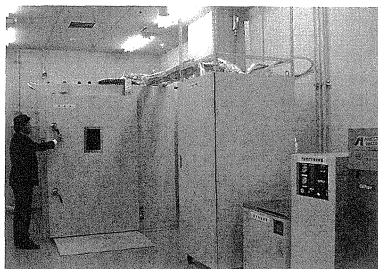
アジアを中心とする諸外国の作品とそれに影響を受けた日本および周辺の国々におけるその後の展開をお楽しみください。

博物館科学—文化財の保存修復

博物館が扱う文化財の保存と修理修復を研究、実践する部門が、博物館科学課です。課は環境保全室と保存修復室で構成されています。環境保全室では展示・収蔵環境（温湿度・空気・光）の整備、有害生物対策、文化財を



文化財保存修復施設

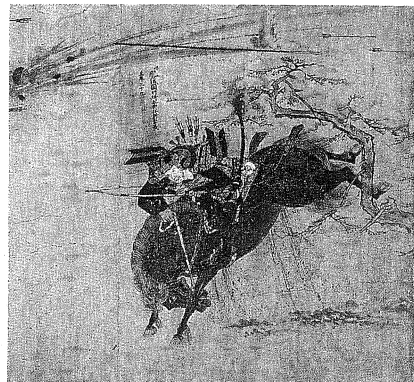


低酸素法有害生物処理装置

科学的に分析する機能を担当しています。ここで現在力を入れている事業は、有害生物管理（IPM）の実践で、積極的にボランティアの協力を得、環境に配慮した有害生物対処を実践しています。保存修復室では、文化財の保存状態調査を行いそのデータ化に努め、修理修復方針の決定・監督を行っています。特に修理修復は文化財を後世に伝える大切な任務であり、文化財保存修復施設では、博物館研究員と修復技術者が共同して科学的分析・調査・研究を行い、積極的に公開する予定です。

展示会紹介「中国 美の十字路」

本展は、唐王朝へむかってトップスピードで突き進む時代の、ダイナミックな中国美術



『蒙古襲来絵詞』（三の九尚蔵絵詞所蔵、11月27日まで陳列）



「水辺のマツリ」ワークショップ

一 本目は、海の子倉院と呼ばれた沖ノ島を題材に取り上げました。玄界灘に浮かぶ孤島は、古来より航海安全の女神を祀る聖域として信仰を集めてきました。原生林に覆われた島内には、至る所に供獣の品々が眠ったままです。金銅龍頭・金製指輪など宝物の数々とともに、沖ノ島の文化・自然遺産の魅力を紹介いたします。

超高精細画像システムの特徴は、きめ細かく鮮明な画像が大画面で表現できることにあります。そのため景色であれば、あたかもそこに居合わせているかのような臨場感が得られ、作品であれば肉眼では見ることのできないディテールを拡大することで、没入感が味わえます。新しい映像の世界を開いた二本の番組を製作しました。

画面を構成する走査線の数であり、標準テレビの場合、その数は五二五本で、ハイビジョンの走査線は、標準テレビの二倍、一一二五本です。それでも三〇インチ以上の大型テレビでは、一メートル以内に近づく走査線が気になります。

ところがシアター4000に設置されるシステムは、同じ縦横比九対一六のハイビジョンの四倍で、走査線が四三二〇本もあります。一面の情報は、ハイビジョンの縦・横四倍で、一六倍です。このため、至近距離で見ても走査線が気にならず、精細な画像を映す

ことが可能となります。さらに色を再現する情報量も、赤、緑、青の各色において現行の四倍の深さ表現を可能としています。

このように、「精細さ」においても「色の表現力」においても格段の違いを表現できるのが走査線四〇〇〇本級の映像です。走査線の緻密さは、解像度が高いとも表現されます。この表現を使えば、走査線四〇〇〇本級の超高精細システムは、世界最高の解像度を持つシステムであり、大画面でも高い臨場感のある映像を映し出すことが可能です。



シアター4000

二 本目は、かつて日本からヨーロッパへと輸出され、大流行を巻き起こした漆器のわざと美を紹介いたします。「蒔絵」の技法や、透き通るような「螺鈿」の装飾。微妙な濃淡の花鳥風月や山水の世界は、西洋のデザインと融合し、新たな美が創造されたのです。「蒔絵祭壇」「洋櫃」「ナイフケース」の三つの作品を紹介いたします。ともに阿川佐和子さんによる情感あふれたナレーションでお楽しみください。

を集めた初の展覧会です。

六世紀後半に隋が中国を統一するまでの戦乱期。北の大地からは遊牧民が押し寄せ、はるか西からはオアシスの民ソグド人によって、珍奇な文物がもたらされました。インドからは仏教が伝来します。この時代、中国は各地の人と文化とであふれかえりました。遣唐使が憧れた、華やかで国際色あふれる唐の文化は、前時代の多様な文化の交流なくしては誕生し得なかったのです。

これまで語られることの少なかった唐王朝誕生までの軌跡。それが優れた美術品によって浮き彫りにされます。

開催概要

会期●二〇〇六年一月一日(日)・

四月二日(日)

休館日●月曜休館

(一月二、九日は開館。一月一〇日は休館)

会場●九州国立博物館 四階 特別展示室

〒818-0118

福岡県太宰府市石坂四一七二

開館時間●九・三〇～一七・〇〇

(入館は開館の三〇分前まで)

作品件数●二〇件

観覧料●一般 一三〇〇円(一〇〇円)

高大生 一〇〇〇円(八〇〇円)

小中生 六〇〇円(四〇〇円)

*上記金額で当館「文化交流展示」もご覧いただけます。

* (一) 内は前売り、二〇名以上の団体料金です。

* 身体障害者等とその介護者一名は無料です。

入館の際に身体障害者手帳等をご提示ください。

* 満六五歳以上の方は (一) 内料金で入場いただけます。

入館の際に年齢の分かるもの(健康保険証、運転免許証など)をご提示ください。

さい。

お問い合わせ

〇五七〇一〇〇八八八六(ハローダイヤル)

教育普及(学校との連携協力)

「ジュニア学芸員事業」の取組

博物館における教育普及の一つとして、学校との連携協力があります。ねらいは、子どもたちが生涯にわたって博物館と親しんでいくことができる基礎を培うことです。そのためには、保存・修復、調査研究、展示といった博物館の機能を体験とおして理解できるように工夫が必要です。講義や研修などとともにワークショップや展示作業、一日学芸員といった多彩なプログラムを展開していくことが求められます。そこで九州国立博物館の開館

に向けた「ジュニア学芸員モデル事業」を平成一四年度から三か年継続して実施しました。県や市の資料館等の協力のもと高校生が学芸員となり同資料館の企画展における「展示解説リーフレットの作成」や「小学生向けワークショップの指導」等を行いました。三か年の取組を経て、「実物資料を活用したプログラム」の組み立て方や「館外でのプログラム実践方策」「学校との連絡調整」など多くのことを学ぶことができました。九州国立博物館には一階にアジア文化体験エリア「あじっば」(アジアの原っぱ)があります。ここではアジアを中心とした七か国の生活文化を紹介する資料にじかに触れることのできる「広場ゾーン」や調査、展示などと関連づけて楽しく学べる「ギャラリーゾーン」があります。本年度は「あじっば」を舞台にジュニア学芸員が自らのスキルを磨き、それを親子づれの来館者などに伝えていくことによって親しみのある九州国立博物館となるよう、新たな「ジュニア学芸員事業」に取り組んでいきたいと考えています。

シアター4000

ハード

シアター4000に設置される映像システムは、走査線が四〇〇〇本級の超高精細のシステムです。画面の「精細さ」を決めるのは、

博物館は文化活動の中心 建物設計にあたって

博物館は文化の原点

あらためて言うまでもなく、博物館は「文化」の原点であり、歴史的な文化の蓄積、さらに地域の個性ともいべき文化を創造し、さらに発展させていくという社会的機能をもっています。同時に博物館はその役割をどう担っていくかが模索されつづけています。

私は九州国立博物館のプロポーザルで、こういう博物館の新しい方向を提案いたしました。それは展示、収蔵、研究に加えて、博物館の新しい社会的役割についてでした。例えば、ヨーロッパでは博物館が主要先進国首脳会議（サミット）のような国際的行事に使われ、アメリカでは大統領の宣誓式という国家的行事がワシントンの博物館で行われていました。国家的、国際的式典が行われる場としての多角的利用のできる博物館の提案でした。プロポーザルの審査委員長・香山壽夫先生はじめ委員の方々にこうした私の主旨をご理解いただき、株式会社久米設計と共同で計画を担

当させていただくことになりました。

博物館の多角的利用

この博物館で特に「インテグレートッド・フォーラムⅡⅠ・F」と名付けた三階吹抜けの大空間を一階に用意したのも多角的な利用を実現させようとする一つです。この博物館



周囲は広々とした緑に囲まれている。昼は外の環境を取り込み、夜は内部から情報を発信するミラーガラス。

建築家 菊竹清訓



の大きな特徴のひとつといえます。ここでは国家的、国際的式典などさまざまな行事や、ファッションショー、コンサートなど楽しいイベントを内外で行うことができます。さらに今後IT化が進み、情報博物館としての活動にも対応することもできます。

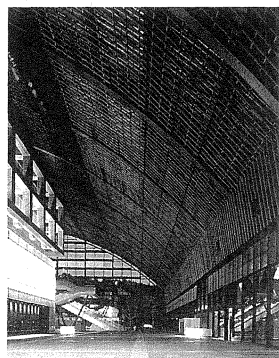
多角的な利用を可能にするために、基本的な室内構成を、平面的には中央部に収蔵庫を納め、まわりをキュレーター（学芸員）管理事務室でとりまいたものとし、立体的には展示室は企画と常設展示を三・四階の二層にとり、収蔵庫をすっぽりと囲うというふうな、だれにも分かりやすく同時に管理しやすい計画の採用や、エントランスに二つの東西のゲートを用意、警備への配慮など、博物館活動の社会的要請に柔軟に対応できるように配慮しています。

太宰府の鎮守の森に囲まれた博物館をとりまく環境は、静かで美しい実に優れた条件に恵まれています。この中に、解放性をもったガラスの博物館を実現し、外部からもその多角

的な活動の状況がよくわかるようにもしました。ありがたいことに開館前にもかかわらず、現在地域のボランティア活動が非常に活発です。ぜひ、行政、博物館、そして市民のみなさんで新たな博物館の役割を盛りあげていただければと思います。

次世代の建築として目指したこと

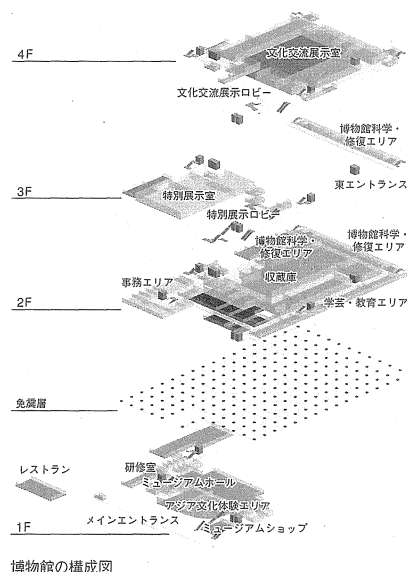
多角的利用というテーマに加え、さらに博物館の建築的なテーマのひとつに、「生物学的な建築」という考え方があります。これは表面積と体積の比例の関係です。生物は体温を一定に保つために表面積と体積の比が決まっています。気候や環境に何万年もかけて適応し、大きさが生物学的に決まってきたといわれています。これを建築で考えてみると、この温帯の日本に相応しい省エネ建築としては、どういう比例がよいかを考えて計画したことです。



式典やイベントなど多目的に利用できるI.F.（インテグレートッド・フォーラム）

一般にこの考えにより建築はおのずから、その表面積と体積に一定の比率をもった環境建築として考えることが必要となってきました。この仮説はエネルギーの効率化に関係し、合理的に空調負荷を低減し、地球環境問題に対応するために、世界で議論されてくる問題でしょう。

二つ目は、温度と同時に我が国の変動する湿度に対して、どう対応するか、これも重要なテーマです。日本では正倉院の校舎づくりは巧妙に湿度をコントロールしてきています。そのために博物館の収蔵庫では徹底して木材をつかい、空調は間接的な利用（魔法瓶方式）とし、木のいい香りがする実に快適な状態につくられています。この博物館では本格的な木の環境を来館者の展示部分にも適用するように考えました。そこで、ロビーなどの仕上げに木材、しかも九州の森林資源豊かな地元材の木材を用いるように考えました。これまで建築基準法の内装制限で木材使用に難しさがありましたが、財団法人日本建築センターのご指導、ご協力でかなり大幅に木材を使用することができました。木材使用も薄い板ではなく、三角形や



丸太、厚板で仕上げています。木材の優れた湿度調節機能を引き出すには、いかに、木材の表面積を増やすかが大切です。そこで三角形や丸太を割ったものを用いています。そして、自然環境に調和する建築としようとするのが、大きなテーマでした。博物館の外に目を向け、自然の植生に植物学者の宮脇昭先生のご指導による鎮守の森構想を加えました。

昼間、ミラーガラスの窓に空とともに四季の景観をうつして博物館は環境に溶け込んでいます。やがて日没の美しい輝きに変わり、次第に室内の照明で浮き上がってきて、表情が一変し、内部の全体構成が出現します。闇の中に博物館の存在をしめそうとしました。

明治32年	美術評論家・岡倉天心が「九州博物館」の必要性を提唱。
昭和2年	帝国議会衆議院に「九州博物館設置に関する建議案」が提出され、同年衆議院で可決確定。
昭和43年	県を中心とした「九州国立博物館設置期成会」が発足。
昭和46年	福岡県が太宰府市に博物館建設用地約17万㎡を確保（14万㎡を寄附、3万㎡を購入）。
昭和63年	地元市民が「九州アジア国立博物館を誘致する会」を設立。 福岡県教育庁に「九州国立博物館誘致促進対策班」設置（同年10月誘致促進対策室設置）。 行政と民間一体の「九州国立博物館誘致推進本部」が発足。
平成元年	文化庁予算に「博物館等整備運営の研究費」を計上。
平成4年	「財団法人九州国立博物館設置促進財団（以下「財団」という）」が発足。
平成5年	文化庁予算の事項名を「博物館（九州）等整備運営の研究」に変更。
平成6年	福岡県総務部に「国立博物館対策室」設置。 文化庁が「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」（以下「委員会」という）を設置し検討を開始。
平成8年	委員会が「新構想博物館の整備に関する調査研究について」中間報告を取りまとめ。 文化庁は「中間報告」の提言を踏まえ、新構想博物館を九州国立博物館（仮称）として、その設置候補地を福岡県太宰府市とすることを決定。 文化庁予算の事項名を「九州国立博物館（仮称）設置調査等」に変更。
平成9年	委員会が「九州国立博物館（仮称）基本構想」を取りまとめ。
平成11年	委員会が「九州国立博物館（仮称）基本計画」を取りまとめ。 文化庁、福岡県が「九州国立博物館（仮称）設立準備専門家会議」（以下「専門家会議」という）を共同で設置。 「九州国立博物館（仮称）を支援する議員連盟」が発足。
平成12年	財団が九州国立博物館の建物の一部を建設するための募金（建設募金）を開始。 国、福岡県および財団により「九州国立博物館（仮称）建築基本設計」が完了。 福岡県により「敷地造成工事」に着工。 専門家会議が「九州国立博物館（仮称）常設展示計画」を策定。 文化庁文化財保護部伝統文化課に「九州国立博物館（仮称）設立準備調査室」を設置。
平成13年	「九州国立博物館（仮称）設立準備調査室」を文化財部美術学芸課に所管換。 国、福岡県および財団により「九州国立博物館（仮称）建築実施設計」が完了。 文化庁、福岡県により「九州国立博物館（仮称）展示基本設計」が完了。 独立行政法人国立博物館（以下「独法」という）内に「九州国立博物館（仮称）設立準備室」を設置。 福岡県により「敷地造成工事」が完了。 財団が福岡県より建造物等の敷地としての土地約17,999㎡の10分の6（所有権の共有持分（国））を取得（購入）。
平成14年	文化庁が財団より上記敷地を取得（寄附）。 国、福岡県および財団により「九州国立博物館（仮称）建設工事」に着工。
平成16年	独法と福岡県により「九州国立博物館（仮称）展示実施設計」が完了。 独法と福岡県により「九州国立博物館（仮称）展示工事」に着工。 国、福岡県および財団により「九州国立博物館（仮称）建設工事」が完了。 名称を正式に「九州国立博物館」に決定。
平成17年	独法と福岡県により「九州国立博物館展示工事」が完了。 独法内に正式に「九州国立博物館」として機関設置。

21 ● 文化庁月報 2005.12

ここでは博物館のほんの一部のテーマにふれましたが、恵まれたこの九州の環境と対話する建築にすることが、最大のテーマであり、次世代建築を目指したことでした。

我が国はユーラシア大陸をおして世界文明の影響を受け、独自の文化を発展させてきました。その窓口となった九州をふりかえることはまさに『世界史の構築につながる』と歴史学者の岡田英弘先生はお教えくださいました。九州に育った一人としてその壮大な『世界史の構築』の場となる一〇〇年の悲願であった国立博物館の建設にたずさわれた栄誉に感謝しつつ、日本文化の存在感を建築によって世界に示すことの大切さを考えてまいりました。

無事開館を迎えるにあたり、これまでご指導いただいた文部科学省、文化庁、福岡県、財団法人九州国立博物館設置促進財団および九州財界の皆様から賜ったご支援とご協力、そして施工に関わった皆様に心より感謝し、深くお礼を申し上げます。九州国立博物館が、日本文化の世界への発信拠点として歴史的な意義をもつことを願つてやみません。

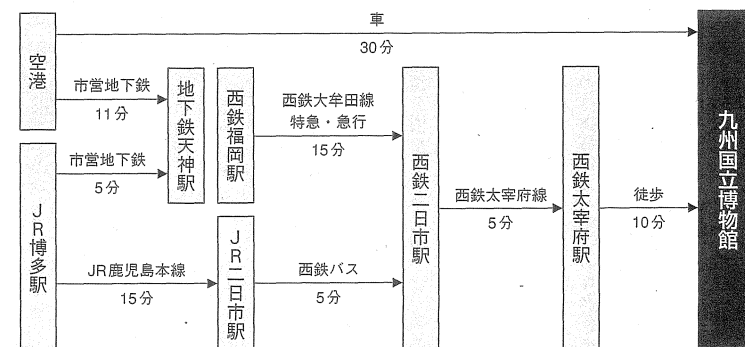
●プロポーザル方式 建設工事に係る設計・コンサルティンク業務を建設コンサルタント等に委託しようとする場合に、技術資料の提出を求め技術的に最適な者を選定する方式

●開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

●休館日：月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）
※年末（平成17年は12月26日～12月31日）

●観覧料 一般420円（210円） 高校生・大学生130円（70円（文化交流展））
※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金
※障害者とその介護者1名は無料。入館の際に障害者手帳等を要提示
※中学生以下、70歳以上の方は、文化交流展について、無料入館の際に年齢の分かるもの（生徒手帳、健康保険証、運転免許証など）を要提示

駐車場の混雑が予想されますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



◆長官対談◆
 「文化人の本音」河合雄雄文化庁長官対談
 川瀬敏郎 花人
 「長官コラム文化庁の抜穴」

◆特集◆ 文化の多様性

【文化庁提言】
 文化多様性条約の策定
 【寄稿】
 文化多様性条約の必要性
 多様性条約の歴史的意義
 文化多様性条約策定交渉の舞台裏
 多様性条約を巡るカナダの取組
 【事業紹介】
 国際文化フォーラム
 【事例紹介】
 ACCU・文化多様性に対する取組

◆文化庁ニュース◆
 平成一七年度文化庁長官表彰表彰者決定
 文字 活字文化振興法

ほか

編集後記

九州国立博物館の一般公開の初日には、約一万三〇〇〇人の入館者があり、一番乗りしたのが小学生三人組で朝の五時半頃から並んでいたことです。博物館の入館者というと、どちらかといえば中高年といったイメージがあり、大変喜ばしく思います。三輪館長が「教科書より分かりやすく学校よりおもしろい博物館を目指したい」と話されており、ぜひ実現していただき、館内がたくさんの子どもたちであふれることを

◆連載◆
 「いきいきミュージアム 美術館 博物館事業レポート」
 新潟県立歴史博物館
 【芸術文化の風】
 ことばたちが芸術に触れる場を
 【著作権Q&A】著作権なるほど質問箱【から】
 著作権者の了解なくとも著作物を利用できる？引用
 【文化交流使の活動報告】
 橋口譲二 写真家
 【伝建地区を見守る人々 伝建歳時記】
 真冬の町並みを彩るイルミネーション 関西を「フスタイバル」
 【史跡を楽しむ】
 方言世界の文化力発信
 【言葉をもつめる】
 地域からの文化力発信
 【地蔵からの文化力発信】
 杷木町「文化芸術による創造のまち支援事業」
 【「文化人ふんびと」 in 関西 関西文化圏で活躍する人々】
 琵琶湖・淀川の本文化から水都大阪の再生をめざす
 【風を呼ぼう、わが町に 登録有形文化財建造物との歩み】
 絹のまちからの文化の発信 近代化遺産の日記念フォーラム
 【日本の伝統美と技を守る人々】
 義大夫館保存会 義大夫館
 【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】
 弥生時代の犬
 【文化財をめぐるパートナーシップ】
 たきどころ

＜お詫びと訂正＞

本誌平成17年11月号30-31頁「地域からの『文化力』発信」中で、事例紹介の跡ヶ沢町立跡ヶ沢第二中学校の県名は正しくは青森県でした。お詫びして訂正いたします。

美術館・博物館チケットプレゼント

今月号の展覧会等のチケットプレゼントは、
 A 奈良国立博物館
 「金沢文庫の名宝」3組 (ペア)
 あわせて「奈良女子校士人」展もご覧いただけます。
 B 九州国立博物館
 「中国 美の十字路」3組 (ペア)
 C 国立国際美術館
 「ブーシキン美術館展」3組 (ペア)
 です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、Aをご希望の方は12月24日(土)、B・Cをご希望の方は1月6日(金)までにご投函ください(当日消印有効)。
 *チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

●ホームページアドレス●
<http://www.bunka.go.jp>

文化庁月報 12月号 (通巻447)

平成17年12月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

発行—株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
 本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
 電話 編集 03 (3571) 2126
 販売 03 (5349) 6666
 URL : <http://www.gyousei.co.jp>

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株) ぎょうせい営業部広告課

電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

©2005 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。